

I K U S E I

わくせいの

2022 60



公益社団法人 競走馬育成協会

# CONTENTS

## ■巻頭言

「ごあいさつ」

(JRA 馬事担当理事 菊田 淳) ..... ①

## ■特集

生産育成牧場就業者参入促進事業 牧場体験会他 (BOKUJOB) ..... ②～⑧

## ■行事

①令和3年度「育成等に関する懇談会」を開催 ..... ⑨～⑪

②令和4年度「定時総会」を開催 ..... ⑫

## ■事業

①育成技術講習会 ..... ⑬

②育成技術表彰事業 ..... ⑭～⑰

③軽種馬生産育成強化資金利子補給事業 ..... ⑱

④競馬関連機材等有効活用事業 ..... ⑲～⑳

⑤軽種馬経営高度化指導研修 (人材養成) ..... ㉒

## ■お知らせ

○賛助会員のご紹介 ..... ㉓

○JRA からのお知らせ ..... ㉔

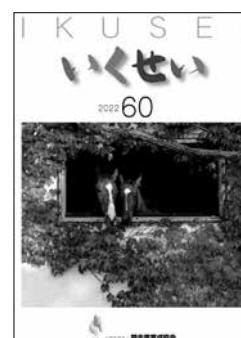
○JSS (日本スターティング・システム(株)) ..... ㉕

○軽種馬防疫協議会からのお知らせ ..... ㉖

## ■巻末

○競走馬育成協会ホームページのご案内 ..... ㉗

○競走馬育成協会役職員人事 ..... ㉗



題字 元会長 小沢一郎  
表紙写真 内藤律子

## ごあいさつ 「競馬における女性の活躍」



JRA 馬事担当理事  
菊田 淳

JRAの菊田です。本年3月から馬事部門を担当しています。どうぞよろしくお願いたします。新型コロナウイルス感染症の影響はありますが、中央競馬は何とか1日も休まず継続できております。皆様のご協力に改めて感謝申し上げます。

久し振りに約6万人のお客様をお迎えしたダービーは武豊騎手による制覇で感動的に幕を閉じ、翌週からは来年のダービーを目指してフレッシュな2歳馬による戦いが繰り広げられています。フレッシュといえば、今年のJRA新人騎手達も3月から頑張っており、中でも話題は女性の今村聖奈騎手です。CBC賞ではティエムスパーダによる日本レコードタイムの逃げ切り。重賞初騎乗・初制覇で競馬ファンの度肝を抜きました。JRAには現在4名の女性騎手がいますが、競馬学校には毎年のように騎手過程に女性が入学しており、今後もその数は増えていくでしょう。

海外に眼を転じて、女性騎手の活躍には目を見張るものがあります。リサ・オールプレイス騎手やヘイリー・ターナー騎手などは日本の競馬ファンにおなじみですが、イギリスのホリー・ドイル騎手やオーストラリアのジェイミー・カー騎手は、リーディング争いをしています。またアイルランドのレイチェル・ブラックモア騎手は昨年、185年の歴史を持つ世界最高峰の障害競走グランドナショナルを制覇した初めての女性騎手になりました。

しかし、このような活躍の裏には、道を切り開いてきた先輩たちの努力がありました。斉藤澄子さんは1936年に騎手免許試験に合格しましたが、競馬関係者が「女性騎手の存在は風紀を乱す」と反対運動を展開した結果、農林省および競馬協会がレース出場を禁止したばかりか、その翌年には男性であることが騎手の要件とされたため免許が失効しました。海外でも騎手免許を取得した女性騎手に対して男性騎手がストライキを起こすなどして抵抗したため、

引退を余儀なくされたことがあったそうです。いわゆる男尊女卑の社会であった競馬界では女性騎手は不遇に満ちたものでした。

私は、競馬は女性が男性と互角で競える数少ないスポーツの一つではないかと考えています。馬術の世界も同様です。東京2020では馬場馬術競技個人選では女性選手3人が表彰台を独占しました。確かに女性は男性よりも筋力が劣ることはあるでしょう。しかし、男性と同等あるいは男性よりも優れた部分もあるのではないのでしょうか。地方競馬においては7名の女性調教師が厩舎を運営しています。JRAにはまだ女性の調教師は誕生していませんが、調教助手や厩務員として活躍する女性たちがいます。

社会における女性の働き方も変化してきました。「男は仕事、女は家庭」という伝統的な男女の役割分担意識等があり、私の母親も内職で家計を支えていましたが、外で働くことはありませんでした。しかし、男女雇用機会均等法が成立し、労働基準法も改正され、育児休業法が定められるなど、少しずつですが女性の社会進出を後押しする環境が整ってきました。最近では女性活躍推進法を制定するなど政府も力を入れています。実際に女性の労働人口は過去30年で約6割増加しているそうです。社会の意識も変わってきました。総務省の調査では、女性が職業をもつことについて「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」と思う人の割合が男女ともに上昇しています。しかしながら、第1子出産を機に約6割の女性が離職しており、出産前のキャリアを一度あきらめざるを得ない状況は改善されていません。

最近では、生産牧場や育成牧場で働く女性たちも増えてきており、その活躍が競馬を支えていると言っても過言ではありません。彼女たちが末永く働くことができる環境づくりを、国を挙げて取り組むことが必要なことは言うまでもありません。

# 生産育成牧場就業者参入促進事業(BOKUJOB)

◎生産育成牧場就業者参入促進事業(BOKUJOB)の取組は、昨年度も本誌でご案内したところですが、今回は就業体験イベントとして特に注力している「牧場で働こう体験会」について、本年のレポートを中心に紹介させていただきます。

## 「牧場で働こう体験会」

日時：7月31日(日)～8月5日(金)

場所：北海道日高地区ほか

参加者：13名

体験牧場：柘臼牧場、谷口牧場・浦河育成センター、  
笹島智則牧場、岡田牧場・目名共同トレーニングセンター、グランド牧場

合計5牧場

見学先：BTC、JBBA、ビッグレッドファーム、  
社台スタリオンステーション、ノーザンホースパーク

内容：以下の通り



2011年から始まった「牧場で働こう体験会」ですが、2020年は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け中止となってしまいました。昨年2年ぶりに再開したこの体験会ですが、本年も新型コロナウイルス感染防止対策を徹底のうえ実施することができました。昨年に引き続き感染拡大防止の観点から牧場での宿泊を行わず、ホテルから事務局が毎日車で送迎する形での実施となりました。

## 体験会レポート(1日目)

### 集合～夢に向かっての第一歩～

今回の体験会には、北は青森県、南は福岡県から67人の申し込みがありました。その中から抽選により15名の参加者が選ばれたのですが、残念ながら直

前のキャンセル等もあり、最終的に男性7名、女性6名の計13名に参加していただきました。参加者の年齢は15歳から23歳でした。「競走馬の牧場で働くことに興味があり実際に就業体験してみたい」「将来牧場で競走馬の生産、育成に関わる仕事に就きたい」「将来は競走馬の獣医師になりたい」など動機は様々でしたが、皆さん初めての牧場体験に目を輝かせていました。

参加者は、7月31日(日)午後2時に新千歳空港に集合しました。事務局を含め、誰とも面識がありませんし、親元を離れ初めて一人旅をするなど、不安な方もいたかと思えます。

空港の受付で最初に行ったのはPCR検査の陰性報告です。参加者には事前にPCR検査を



集合場所での1コマ

お願いし、陰性でなければ体験会に参加することができません。皆さん緊張した面持ちで検査機関からの陰性報告を受付で提示していました。幸い全員陰性で、体験会参加の証としてBOKUJOBオリジナルキャップを配付しました。全員が嬉しそうに被りだし一体感のような雰囲気が芽生えました。

準備が整ったところで、いよいよ牧場に向けて出発です。

バスの中では、事務局から今回の体験会における注意事項などを伝えた後、参加者各々に簡単な自己紹介がありました。



移動の1コマ

新ひだか町の静内エクリプスホテルに到着です。

今回の体験会では、静内組(男性2人、女性3人)が岡田牧場とグランド牧場に、浦河組(男性5人、

女性3人)が杵臼牧場、谷口牧場、笹島智則牧場に分かれての牧場体験としました。



浦河組オリエンテーション

コロナ前には、全員が一度浦河のホテルに集まり翌日からお世話になる牧場の方と対面を兼ねた食事会を開いていたのですが、感染リスク低減の観点から、静内組と浦河組に分けて対面会を実施することになりました。

浦河組は、静内を出発し約1時間ほど走り浦河町の「うらかわ優駿ビレッジ AERU」に到着しました。

到着後は静内組、浦河組とも事務局から改めて体験会に関するスケジュールや注意事項の確認後に、受け入れていただく牧場の方々を交え、各々のホテルで会食を行いました。

## 体験会レポート（2日目）

### 各牧場で仕事体験

いよいよ牧場体験のスタートです。ホテルで朝食を済ませ、7時30分に事務局が手配した車でホテルを出発しました。

静内のホテルから車で10分ほどの所にある(有)岡田牧場は静内でも有数の歴史を持つ牧場です。社長の岡田隆寛さんは、日本軽種馬協会が行う生産育成技術者研修の修了生であり、育成牧場の(有)目名共同トレーニングセンターや新ひだか町にある大型スタリオンステーション(有)アロースタッドの社長も兼務しています。近年では生産馬ヤマカツエースが活躍し、種牡馬となっています。

ここでは馬に関する仕事に興味を持っている高校生の女子3人が参加してくれました。

今回の体験会では、場長を務める漆原雄二さん自らが指導を担当してくださいました。

### 初めての厩舎作業

牧場に到着し、午前中は牧場の施設見学後、いよいよ体験開始です。参加者の殆どが馬に触るのは初めてです。もちろん厩舎作業などの経験はありません。馬房の清掃、ブラッシング、飼料作り、馬装の仕方、全てが初めての作業ですが、漆原さんをはじめ

めとする牧場のスタッフに手取り足取り教えていただきました。参加者は、馬に初めて触れて「とてもかわいい」と思ったのはもちろんですが、「馬にも個性があり、人間のようなところもあり親近感を感じた」「意外と体力を必要とする仕事だった」「牧場の作業をやるうえで人とも馬ともコミュニケーションをとることは非常に大事である」といったことを感じたようです。



岡田牧場①



岡田牧場②

新ひだか町の(有)グランド牧場は、生産・中期育成・後期育成を行っている総合牧場です。天皇賞(春)に勝ったスズカマンボやチャンピオンズカップ優勝のサンビスタ



岡田牧場③

などの活躍馬を出しています。ここでは、「将来、牧場で競走馬の生産、育成に関わる仕事に就きたい」という男子高校生2人が体験させていただきました。

今回は、同牧場の真歌トレーニングセンターで体験をさせていただきました。初めに担当の鈴木稚子さんから牧場の施設を案内していただいたのですが、まるで遊園地の観覧車を横にしたかのような大きなウォーキングマシンを見てそのスケールに驚いていました。

施設見学のあと、こちらも厩舎作業から体験がスタートです。(有)グランド牧場



グランド牧場①

は年間50頭以上も生産する他、現役の競走馬も多数在籍しているため、厩舎作業ひとつとっても膨大な量になります。慣れない道具を使った作業は思ったよりも難しく、水の入った水桶や、汚れて水分を含んだ藁、馬の餌が入った飼葉桶、どれも重くて簡単に持ち運びができるものではありません。



グランド牧場②



グランド牧場③

初日の体験は体力的にきつい作業が殆どで、もしかしたら自分が思い描いていた牧場実習とはかけ離れていたかもしれません。しかし、この2人からは「牧場作業の辛い部分を最初に体験できたことにより、より牧場で働く気持ちが固まった」と感想をいただき、事務局として非常に嬉しく感じました。

お昼はお弁当です。ホテルが作ったお弁当を事務局がそれぞれの牧場に出前です。静内組のお弁当は静内のホテルの中でも朝食が美味しいことで有名な静内エクリプスホテルのお弁当です。当然、お弁当のクオリティーも高く、参加者にも好評でした。



お弁当

昼食後は、両牧場とも午後の厩舎作業を行いました。午前中はなかなかうまくいかなかった作



2日目の夕食

業も、慣れてきたのか夕方には手際よくできるようになりました。

17時に実習を終了した後は事務局の車でホテルに戻りましたが、初日の緊張と厩舎作業の疲れもあり、ほとんどの参加者は夕食後は各自の部屋に戻って熟睡した模様でした。

## 体験会レポート（3日目）

### 2日目の仕事体験

牧場体験2日目も8時から体験開始です。

浦河町杵臼にある笹島智則牧場はまだ歴史が浅い牧場ですが、代表者の笹島智則さんはBTCの育成調教技術者研修の卒業生で、バイタリティーに溢れた方です。将来牧場で働く若者が一人でも多くなって欲しいという熱い気持ちから、昨年からは体験会を受けいただきました。

ここでは「将来馬に関わる仕事がしたい」

「JRAの厩務員になりたい」という高校3年生の男子3人が参加してくれました。

体験2日目ということもあり、引き馬にも慣れてきました。笹島さんからは、「怪我をしている馬は歩様を見れば直ぐに分かる」「馬にも序列があり、それを考慮して放牧や集牧の序列を決めている」「歩いている最中に馬にちょっかいをかけることで、育成牧場に行ったときにスムーズな調教が出来るようになる」という話を聞いて感心していました。また、人が乗れる状態にするまで、何日もかけて慣らすという事も学びました。



笹島智則牧場①



笹島智則牧場②



笹島智則牧場③

草刈りはHey MASAO（ヘイマサオ）という乗用草刈機で行っていることや、出産の際は監視カメラで見守っているという話を聞き、牧場の仕事も機械化が進んで効率化が図られていることも知りました。

生産牧場かつコンサイナーである浦河町絵笛の(有)谷口牧場で牧場実習を行ったのは「将来は獣医師になりたい」「地方競馬の厩務員になりたい」という高校3年生の男子2人です。コンサイナーは、他の牧場で生まれた馬を預かり、そしてせりに上場するために躰を行います。

谷口さんには、馬の手入れや厩舎作業に加え、調馬索による調教方法や乗馬も教えていただきました。過去に馬に跨った経験のある参加者もいましたが、今回は銜も鞍もつけていない全くの裸馬のポニーで、馬の背中に跨ってもすぐにバランスを崩し落馬しそうになります。乗馬は無駄な力を使わずに体重移動によって馬を操作することが必要なことを改めて実感したようでした。

17時に作業を終えた後はホテルに戻り、入浴後に夕食を済ま



谷口牧場①



谷口牧場②



谷口牧場③

3日目の夕食



3日目の夕食

せました。2日間連続で慣れない作業を行ったこともあり、ほとんどの参加者は夕食後にホテルの部屋で熟睡した模様です。

## 体験会レポート（4日目）

### 体験会の内容も後半に入ります

テイムオペラオーの生まれ故郷である(有)杵臼牧場は、生産そして中期育成牧場です。ここでは、「将来は牧場で働きたいので具体的にどのような仕事をするのか知りたい」という21歳、「将来は競馬業界で働きたい」という大学3年生、「牧場の就職を希望しており、就職前に就業体験をしたい」という23歳の大学院生の女性3人がお世話になりました。この日は放牧に出されていた馬を厩舎に



杵臼牧場①



杵臼牧場②



杵臼牧場②

戻すことから始まったのですが、集牧の際に「帰るよ」の声に馬が反応して集まってくる光景に感動していました。

また、仔馬のブラッシングでは、思いのほか強くブラッシングしても大丈夫ということを学んだようでした。

### 力仕事・疲労

馬を厩舎に戻し手入れをした後は、放牧地にある馬のポロ拾い、草刈りや飼葉の準備を行いました。牧場の敷地が広いうえに力仕事も多く、真夏の暑い中での作業であったため女性にとっては少しきつい仕事で疲れた様子でしたが、3人ともとても充実した表情でした。

この日は15時に作業を終え、静内組は浦河組の待つ浦河のホテル AERU に向かいます。

AERU で 3 日ぶりに再会し、夕食をともにしました。これが今回の体験会で初めてとなる参加者全員が集まる食事であったため、静内組と浦河組の間に少しのぎこちなさが残っているようでした。



夕食会には、**4日目の夕食会** 浦河町の隣町である様似町の様似共栄牧場の辻陽さん、BTC 研修の OB で現在は山崎 STABLE で働いている東森悠平さんと沖沢峰々さんにも参加していただきました。辻さんは新潟大賞典 (GIII) に優勝したサンレイポケットの生産者で、牧場で働くことについての魅力や苦勞についてお話をいただきました。また、東森さんには牧場で働くことになったきっかけ、沖沢さんには女性が牧場で働くことの苦勞やメリット等についてお話をいただきました。参加者は 3 人の話しに興味津々で活発な質疑応答が行われました。その後は、参加者全員に体験会前半の感想と後半に向けての意気込みを語ってもらいました。

## 体験会レポート (5日目)

この日からは周辺施設の見学が主になります。

最初は、軽種馬育成調教センター (BTC) が行う「育成調教技術者研修」の体験入学会です。

これは、強い馬づくりのために、競走馬の育成について高い技術および深い知識を習得させることを目的とした 1 年間の研修制度です。

参加者には体験乗馬の後、実習を間近で見学し研修生の生の声を聞いたり、馬の動きやクビの強さなどを忠実に再現したシミュレーターを使って騎乗スタイルの基礎などを体験していただきました。

その後は施設を見学しました。BTC が位置する日高育成牧場の総面積は約 1,500ha。英国のニューマーケットや仏国のシャンティイなどと同様の大型育成調教場で、多くの民間育成業者が強い馬づくりに励んでいます。ゴールドシップ、カワカミブリンセス、インティやミッキーチャームなどもここで育成されてきました。広大な草原を利用した直線 2,000m の芝馬場をはじめとしたスケールの大きさに圧倒されながらも、この場所で働くことにも夢が広がった様子でした。

昼食後は、新冠町にある (有) ビッグレッドファームを訪問しました。生産から育成、そして競走馬の休養も行う一方で、種牡馬 6 頭を繋養するこの



## BTC 見学

牧場では、屋根付き 1,100m の坂路コースなどの牧場施設や、種牡馬として活躍中のゴールドシップやウインブライト、ジョーカプチャーノなどを見学させていただきました。ゲームの「ウマ娘」をきっかけに競馬に興味をもった参加者



が多かったのですが、本物のゴールドシップを見て感動していました。

その後は日本軽種馬協会静内種馬場で、同協会が行っている生産育成技術者研修の施設を見学させていただきました。施設では、研修生用のトレーニング機器を体験した他、研修生と対面し研修に関する生の感想を聞かせていただきました。



ビッグレッドファーム見学

この日の夜は、同研修制度の養成担当者であるJBBA 藤田課長と吉井教官を交えた夕食会を行いました。体験会の初めの頃は、何を聞いてよいのかイメージが湧かなかった参加者たちも、ひと通りの実習を終えたあとだけに「牧場での仕事」に対するイメージも固まってきたためか、2人には具体的な質問も多くしていました。



JBBA 見学その1

## 体験会レポート（6日目）

「夏休み牧場で働こう体験会」も最終日の朝を迎えました。朝7時に朝食をとり、前日訪問した日本軽種馬協会静内種馬場で、ケンタッキーダービーやドバイワールドカップの優勝馬アニマルキング



5日目の夕食会

ダム（USA）、凱旋門賞優勝馬バゴ（FR）などの種牡馬とともに、普段なら入ることが出来ない種付場も見学させていただきました。

その後は、研修生の実習を見学しました。年は大きく離れていない彼らが、入学後4ヶ月で、馬を乗りこなす姿に関心していました。ここでの見学は短い時間でしたが、自分もここで研修をしたいと感じた参加者も何人かおり、進路を決める上で参考になったと好評でした。



JBBA 見学その2

次は、勇払郡安平町にある社台スタリオンステーションの見学です。新型コロナウイルス感染拡大の影響により一般の見学者の受け入れを制限している中で、将来の牧場就労候補者のためにと特別に受け入れていただきました。スタリオンでは見学者用に

設けられた特別なエリアから、徳武英介さんの説明により、エピファネイア、オルフェーヴル、キズナ、キタサンブラック、コントレイルなど、最近までターフを賑わせた種牡馬を見ることができました。アイドルに会えたかのように、一同感激の様子でした。



その後はノーザンホースパークへ移動して昼食、そして場内の

#### 社台スタリオン見学

自由見学です。

ここは、これまでの見学施設とは少し違い牧場というよりは馬と触れ合える公園で、体験会最後の時間を存分に楽しんでもらいました。

ここには、ウインドインハーヘアやアドマイヤジュピタなど、かつての名競走馬たちがたくさんいます。それぞれが、新しい友人たちと自由な時間を過ごし、新千歳空港から帰路につきました。

体験会終了後、「牧場で仕事を現地で体験でき、実際に仕事をしている人から直接話を聞いたことがよかった」「特別な施設や名馬を生で見学できたことがよかった」といったさまざまな声が届けられています。その一方で「新型コ

ロナウイルスの影響で牧場の人々や研修生とあまり交流ができなかった」「見学のスケジュールがタイトなためじっくりと見学できなかったのもう少し余裕のある見学スケジュールにして欲しい」という声も。いただいた声は今後にしっかりと反映させていきたいと



#### ノーザンホースパーク

考えています。今回も新型コロナウイルスの影響下での実施となりましたが、参加者の方々には感染は勿論のこと、ケガや病気もなく体験会を終了させることが出来たことに改めて感謝申し上げます。参加者同士、牧場関係者、私たちスタッフと過ごした時間が今後、お役に立つことがあれば幸いです。

最後になりましたが、ご協力いただきました牧場の方々、ならびに関係者のみなさまに心から御礼を申し上げます。



明日に向かってジャンプ！

# 令和3年度「育成等に関する懇談会」を開催

JRAと競走馬育成協会との「育成等に関する懇談会」は平成12年度から継続して開催されています。令和3年度の懇談会は10月1日(金)13時30分からJRA本部408会議室において、JRAから上野儀治馬事担当理事、吉成公伸馬事部長、伊藤幹生生産育成対策室長ほか担当職員、競走馬育成協会から栗田会長をはじめ地域団体を代表する理事等のほか担当職員が出席して開催されました。

## 開会挨拶

最初にJRA上野理事より、以下の内容の挨拶がありました。

- ①平素より競馬開催をはじめとする本会事業にご理解とご協力を賜り御礼申し上げます。
- ②コロナ禍にありながら競馬を継続できるのは、競馬にかかわるすべての関係者の感染症対策への努力に加え、育成・生産の基盤がしっかりしているからと感じている。今後とも競馬を止めることなく続けていければと考えているので、不便をおかけすることもあると思うがご容赦願いたい。
- ③東京オリンピックにおいて、JRAはコントリビューターとして協力したが、無事に開催でき安堵している。また、総合馬術競技で本会戸本職員が4位入賞と非常に良い結果を残してくれた。今回の開催を通して日本の獣医療や検査技術のレベルの高さを世界に証明でき、非常に有意義であったと考えている。

続いて当協会栗田会長より、以下の内容の挨拶がありました。

- ①多忙の中、懇談会の開催に感謝する。また、競走馬育成協会の業務について日頃からの助言・指導にも感謝する。JRAが新しい本部ビルに移転して初めての開催であり、私自身大変感慨深い。更に、先日のオリンピックにおいて戸本選手が4位入賞を果たしたことに祝意を申し上げます。
- ②我々育成業者もコロナ禍ではあるが、競馬の発展に寄与できるよう努力していきたいと考えているところ。本日は、育成技術表彰事業・競走関連機材等有効活用事業・BOKUJOB関連・その他要望事項について議論させていただきたいと考えている。

## JRAからの報告

最初にJRAから「JRA育成馬売却結果」「セリ市場の動向」の報告がなされました。

## BOKUJOBの活動状況と育成等を取り巻く状況について

次に当協会から「育成牧場における人材確保について(BOKUJOB)」の報告と以下に記載した「育成等を取り巻く状況について」を披露し、それらに対するJRAの見解等が示され意見交換がなされました。

## 「育成等を取り巻く状況について」

令和3年も前年に引き続き新型コロナウイルスの感染拡大が、世界中の様相を大きく変えてしまいました。

その中でも中央競馬は、前年の無観客での競馬開催から入場者を一部抑制しながら続けられており、日本の競馬の力強さを示しています。これは開催団体の並々ならぬ努力に加え、厩舎関係者を中心とした競馬に係わるすべての者が競馬開催の存続という最大目標へ尽力していることに間違いありません。育成牧場もその大きな役割分担を担っています。

新型コロナウイルスの恐怖に加えて毎年各所で繰り返される自然災害とも闘いながら、生産地やトレセン周辺における育成牧場は、トレセンが実施していない競走馬に育つための初期馴致や出走臨戦態勢のための出走間の維持調整を実践し、新馬戦をはじめとした出走頭数の確保に寄与しています。育成牧場は競走馬のライフサイクルのひとつのステージであり、中央競馬の安定に不可欠な役割を担う育成牧場の重要度は増しています。

育成という業界が安定することが、中央競馬を維持していくことにつながります。競馬が継続的に開催されるためにも育成業界への各方面からの十分な配慮がより一層必要になってまいります。育成という業界が評価され安定的に活動できるようJRAの強い支援が望まれるところです。

## 1. 人材の確保・養成について

育成調教に係わる人材の確保と養成は競馬サークル全体の深刻な課題となっています。最近では日本の社会問題でもある少子高齢化や景気動向による他種業界の雇用環境の改善等の影響を受けて、軽種馬産業界は就労者の獲得に苦慮する状況が続いています。また競馬学校の年齢制限撤廃による人材流出の影響も受け、人材不足は想像以上に深刻です。

当協会を事務局にJRAほか関係5団体が連携して「競走馬の生産育成牧場への就業者参入促進事業

(BOKUJOB)」を展開しており、地味ながら着実に成果をあげてはいます。しかし、令和2年から対面型のイベントをことごとく中止せざるを得なくなっており、加えて若者の減少や他業種との競合等の現実は厳しく、新規就労者の数は減少を食い止めるのに手一杯という現状です。

また育成牧場という性質上、騎乗技術者の養成は必要不可欠です。業界としても労働環境の改善等に取り組む一方で、育成預託料を抑えることも求められ、有望な人材が中央競馬へ流れることを引き留めるだけの魅力を提示することができないでいます。

これらのことから業界では労働力不足を外国人労働者に依存するようになってきていますが、現在はそれもままならぬ状況です。日本人の若者には多くの魅力的な職業が提示されており、この業界は対抗できる魅力を示せないのも一因です。牧場や地方競馬で外国人材の登用が避けられない現実となってきた以上、いずれJRAにも何らかの影響が及ぶかもしれません。

競馬の恵みが循環することで育成牧場もある程度潤い、若者に魅力的な労働条件を提示できるようにならなければなりません。今後とも就労者の獲得や騎乗技術者の養成はもとより、就労者が定着できるような育成牧場の経営基盤の安定にも、JRAの多方面からの支援を強く願うところです。

## 2. 育成技術表彰について

新馬戦に向けた入厩前の若馬育成や次走に向け臨戦態勢の維持調整といった昨今の育成牧場に求められる業務に対する評価として、育成技術表彰事業は会員から強い関心と意欲をもって注目されています。

JRA助成予算における褒賞費総額については、平成30年度以降は毎年増額していただいておりますが、令和2年度も会員育成馬の勝利数および表彰該当率が高水準で維持されたため、褒賞単価は65,750円（令和元年度60,740円）に留まりました。令和3年度も引き続き褒賞費総額を増額していただいておりますが、競走体系や競走数等の変更および表彰実績が高水準で推移されていることなどから、依然、表彰単価は育成技術表彰規程に定める原則単価である100,000円にはほど遠い状況です。

また生産牧場についてはこれまでその経営基盤に様々な対策がなされてきましたが、近年になって重要視されるようになった育成牧場について後発であることから、生産者賞のような制度はなく、その成果が評価されるのは「育成技術表彰制度」だけであります。近年の競馬の仕組みからは、この「育成技術表彰制度」の報奨金をさらに拡大し、競馬サイクルの一翼を担う育成牧場の基盤整備に寄与することが望まれています。そうした還元が就労環境を整え、ひいては後継者の養成や育成技術者の確保等につながると考えられますので、さらなる支援の増強をお願いします。

一方、令和2年以降実施できない状況が継続しておりますが、JRA競馬場における2歳重賞6競走の会員表彰は、会員の大きな励みとなっています。関係者やお客様の競馬場への入場制限が解除された際には、表彰機会のご提供再開をお願いするとともに、対象競走の拡大についても検討をお願いします。

## 3. 育成牧場の基盤強化対策について

育成牧場の経営には、人材確保、技術者養成、技術向上および設備投資が必要です。しかし耕作農業のような公的融資等の制度はないにも関わらず、その一方で設備投資等の経済負担増加の一途をたどっています。また、人材確保の面からも経営基盤の安定が不可欠です。

利子補給事業においては、平成29年以降の4年間で11件の新規の利子補給金交付があり、令和3年度も既に2件の交付と1件の申請があったところです。長く続く低金利時代を設備投資の好機と捉えたためか、近年は各牧場が金融機関と協力して積極的にこの制度を利用するようになりました。本制度における償還期間は20年間もの長期にわたることもあることから、今後も制度の安定的な維持が重要と考えられます。

一方、競馬関連機材等有効活用事業については、JRAおよび関連団体のご協力のもとに実施しております。本事業は牧場経営上の即効性があることから会員の関心は非常に高く、抽選倍率も年々増加しています。今後もより多くの機材を育成牧場で有効活用できるよう、JRAおよび関係団体の皆様にはより一層の援助をいただきますようお願いいたします。

## JRAの見解と懇談内容

### 1. 人材の確保・養成について

競馬サークル全体で取り組むべき課題と認識している。本年も新型コロナウイルスの影響で対面でのBOKUJOBのイベントは中止と承知しているが、WEB相談会など様々な試みにはJRAとしても協力させていただいた。人手不足については大きな課題と受け止めていることから、JRAとしても今後とも協力・支援を惜しまずに続けていく。

### 2. 育成技術表彰事業における褒賞金について

JRAとして「育成技術表彰事業」の重要性は認識しており、褒賞費予算については、平成22年から平成29年までの7年間据え置きましたが、平成30年から4年続けて増額してきたところです。令和4年度についても昨今の発売金の状況を鑑み増額する方向で各所と調整を行っているところです。

また、JRA競馬場における2歳重賞6競走の会員表彰については、令和2年より新型コロナウイルスの影響

により表彰式自体を行っていないため、当該表彰も行っていない状況です。最終レースの遅延につながるため、対象競走を増やすことは難しいですが、競馬場担当者には会員表彰の必要性を説明し、表彰式再開時には、現在実施している競走については引き続き実施できるように努めていきます。

### 3. 育成場の基盤強化対策について

「競馬関連機材等有効活用事業」については、今後も機材の必要な更新を行っていくので、要望にお答えできるような物件を案内できるものと考えています。

以上のような見解が示されました。

これらのテーマについては以上のような内容でありましたが、この懇談会は比較的自由な意見交換ができるように設定されており、この他にも、以下のような内容について意見交換がなされました。

#### 【施設および設備に対する補助事業】

育成協会：新築に対する補助や施設改修の費用も補助対象となるような事業をお願いしたい。

JRA：生産地懇談会でも話に挙がったが、施設に関しては、新築のほか解体にも費用がかかると聞いている。

育成協会：今回は馬場の砂の入替・路盤改修、埒、厩舎そのものの改修など施設・設備に関する全体的な話しを想定している。

JRA：議題の中にトレッドミルやウォーキングマシンという具体名も上がっていたが、今回の論点は①施設・設備の改修、②トレッドミル・ウォーキングマシンの導入に対する補助、という話しでよろしいか。

育成協会：その通り。

育成協会：JRA はどれくらいの頻度で競馬場の砂を入れ替えているのか。

JRA：詳細な頻度はわからないが、頻繁に砂を洗っている。民間の育成牧場とは状況が異なると思う。

育成協会：砂を更新するだけでかなりの経費がかかる。坂路の屋根など、簡単な修繕をするだけでも高額な費用がかかる。それらに対して補助があれば非常に助かる。トレッドミルやウォーキングマシン新設するのは各牧場によって要不要があると思うが、施設の修繕に関してはほとんどの牧場が必要だと思う。

JRA：趣旨は理解した。生産地からも同様の要望がでてきている。(JBBA 等との相談になるが) 来年で生産振興事業が5年目を迎え法改正が行われる見込みなので、これを機に良い方策を見つけられるか検討をしたい。

育成協会：トレッドミルやウォーキングマシンは、人材不足を補う設備であるという認識も持っていただきたい。

JRA：法改正のタイミングで、人手不足を解消するためのツールという位置付けで国・JRA・JBBA で議論したい。

育成協会：JBBA、NAR、JRA、国で話をすると、生産者主体の話になることが多いので、育成業界にも焦点をあてていただくよう配慮願いたい。

JRA：国は、牛など食物については話しが通りやすいが、馬だとなかなか話しが進まない。施設改修にかかる補助についても同様の理由からなかなか話しが進まないところがある。

育成協会：我々、一事業主が言ってもどうにもならないので、是非 JRA から話をして欲しい。

JRA：畜産も人材不足という面では同じなので、トレッドミルやウォーキングマシンとつなげることはできるかもしれない。引き続き検討したい。

#### 【トレセン近郊における育成調教施設】

育成協会：BTC ができたことにより北海道の育成業に影響を及ぼしたように、本州のトレセン近郊に本州の育成業者が利用できる BTC のような施設の提供について、中期的視野に立って検討をお願いしたい。

JRA：趣旨は理解した。施設の必要性は理解できるものの、実現へのハードルが高く、中長期的に見ても今後検討が必要。

育成協会：ハードルが高いことは理解している。

JRA：検討させていただきたい。

育成協会：トレセン周辺牧場の現状を理解いただけたと思う。これを一つの大きなテーマとして今後検討いただきたい。

育成協会：馬が売れるほどトレセン周辺の牧場に馬が入ってくるが、中小の育成業者では人だけでなく施設も足りていない。大規模施設があれば、トレセンとの出入りもスムーズになり現状打開につながる可能性はある。

JRA：中央競馬も近年出走実頭数は過去最高を記録しているが、一方で1頭あたりの出走回数は減少している。生産頭数の増加等も影響していると思うが、番組編成も含めて検討が必要。トレセンの馬房数も減らしている中で、どのように競馬を開催していくかも課題である。

育成協会：トレセンに馬が入厩できないことで、周辺の育成牧場にたくさん馬が入ってくる。それに伴い高い騎乗技術も求められることから、今回の議題について今後も検討いただきたい。

## 令和 4 年度「定時総会」を開催

令和 4 年度定時総会は、令和 4 年 2 月 18 日（金）14 時に日本中央競馬会新橋分館 4 階会議室において開催されました。

今回は、政府による緊急事態宣言の発出、新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、書面と通信手段により総会の成立要件を満たした上で、Web 会議ツールを用いて開催しました。なお、一般会員に対しては、委任状あるいは議決権行使書の提出を求めた上で実施しました。

冒頭、栗田会長から「コロナ禍における本総会の変則開催への協力を感謝する。この状況においても中央競馬が開催を継続できていること、会員牧場もその一端を担っておりスターホース誕生にも貢献していることに敬意を表したい。また、従前に技術講習会で指導いただいた JRA 戸本選手がオリンピックで 4 位という好成績をあげたことは大変喜ばしいところ。一方、コロナ禍の影響により、昨年も技術講習会及び海外派遣が実施できないことは残念であった。

育成技術表彰については一昨年を上回り 353 勝と高いレベルを維持することができた。

協会としては、現下の状況においても就業者参入促進事業の推進を中心に、公益法人として小規模牧場も含めた業界全体の基盤強化に向け創意工夫してまいりたいとの挨拶がありました。

引き続き、議長に荻野豊氏が選出され、以下の議案の審議に入り、原案の内容のとおり承認されました。

第 1 号議案「令和 3 年度事業報告及び令和 3 年度財務諸表について」

第 2 号議案「令和 4 年度会費等の額及び徴収の方法について」

第 3 号議案「理事及び監事の選任について」

### ※令和 4 年度 役員一覧

役 職	氏 名	備 考
会 長 理 事	栗 田 晴 夫	現理事
副会長理事	和 田 信 也	現理事（新任）
副会長理事	飯 田 正 剛	現理事
理 事	荻 野 豊	〃
理 事	高 橋 司	〃
理 事	沖 崎 誠 一 郎	〃
理 事	中 内 田 克 二	〃
理 事	柏 木 務	〃
理 事	宮 島 成 郎	〃
理 事	織 田 信 美	〃
監 事	五 島 崇	現監事
監 事	岩 崎 幸 治	現監事（新任）

# 育成技術講習会

## 令和3年

育成技術講習会はJRA、BTC および当協会の3団体共催での講習会として、以下の通り開催しました。コロナ禍のために残念ながら一部に開催中止となったものもありますが、開催されたものについては会員の皆様より好評をいただきました。中止となったものの代替として、JRA主催のWebセミナー（第16回競走馬スポーツ科学セミナー）への参加を案内するとともに、HP上で東北地区および九州地区での講習会動画を公開しました。

### ○東北地区

9月9日(木) 13:30~15:00

八戸家畜市場

演題：「分娩時に発生するトラブルとその対応」

講師：JRA 日高育成牧場 業務課育成係長 岩本洋平氏  
BTC 主催



### ○北海道地区

新型コロナウイルス感染拡大防止等の観点から中止となりました。

### ○関西地区

新型コロナウイルス感染拡大防止等の観点から中止となりました。

### ○九州地区

9月29日(水) 13:30~15:00

(公社)日本軽種馬協会 九州種馬場

演題：「分娩時に発生するトラブルとその対応」

講師：JRA 日高育成牧場 業務課育成係長 岩本洋平氏  
BTC 主催



### ○関東地区

新型コロナウイルス感染拡大防止等の観点から中止となりました。

## 令和4年

令和4年度の開催については10月1日現在で以下の通りの開催を実施、予定しておりますが、新型コロナウイルス感染拡大防止等の観点から変更となる場合があります。実施の有無および予定の変更については、随時協会HPを通じてお知らせします。

### ○東北地区

9月8日(木) 13:30~15:00

八戸家畜市場

演題：「繁殖学に基づいた繁殖牝馬の管理方法」

(基礎~応用、不受胎時の対応、最近のトピックスなど)

講師：JRA 日高育成牧場 生産育成研究室 研究役  
村瀬晴崇氏

BTC 主催



### ○北海道地区

(予定) 10月20日(木) 17:30~19:15

(公社)日本軽種馬協会 静内種馬場

演題：「馬と折り合うための技術~実馬を用いた講習会~」

講師：JRA 馬事公苑 上席調査役 北原広之氏、  
普及課 吉澤和紘氏、西脇文泰氏  
育成協会主催

### ○関西地区

(例年秋に開催)

JRA 主催

10月1日現在未定

### ○九州地区

9月28日(水) 13:30~15:00

(公社)日本軽種馬協会 九州種馬場

演題：「繁殖学に基づいた繁殖牝馬の管理方法」

(基礎~応用、不受胎時の対応、最近のトピックスなど)

講師：JRA 日高育成牧場 生産育成研究室 研究役  
村瀬晴崇氏

BTC 主催



### ○関東地区

(例年秋に開催)

JRA 主催

10月1日現在未定

# 育成技術表彰事業

## 1. 育成技術表彰事業について

- (1) 平成11年11月29日制定「育成技術表彰規程」により、平成12年度から現在の表彰事業が重賞競走を対象に開始されました。
- (2) 平成13年度には、育成段階の成果が反映され易いと考えられる新馬競走が表彰対象に加わり、重賞競走とともに表彰が行われてきました。更に、順次表彰対象の拡充・充実が行われ、平成31年度（令和元年度）にはリステッド競走が新たな対象となりました（表1）。

## 2. 令和3年度の表彰事業について

- (1) 令和3年度の表彰件数は、対象557競走のうち353競走でした。該当率については、特に2歳新馬競走で81.4%、2歳重賞（含交流）・リステッド競走で95.0%と高い該当率を維持しており、対

象競走全体でも63.3%と高い水準を維持する結果となりました。

- (2) 令和3年度の表彰対象者は、表3の通りです。

## 3. 令和4年度の実施について

- (1) 表彰要件等については昨年から変更はありません（表2）。
- (2) 平成20年度に実現した重賞2歳ステークス競走の施行場における育成者表彰対象については、昨年は新型コロナウイルス感染拡大防止等のため全競走で中止となりましたが、本年は函館・新潟・札幌・小倉競馬場の各2歳ステークス4競走で実施されました。11月に施行される京王杯・デイリー杯については10月1日現在実施予定ですが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止、変更となる場合があります。

表1. 育成技術表彰事業の推移

区 分	表彰対象及び拡充の経緯	(表彰件数)	区 分	表彰対象及び拡充の経緯	(表彰件数)
平成12年度	2歳重賞・3歳重賞 障害重賞・3歳(4歳)以上重賞競走の3歳馬・ダート重賞交流競走(3・4歳限定)	39件	平成21年度		225件
平成13年度	2歳新馬競走	147件	平成22年度		230件
平成14年度		163件	平成23年度		229件
平成15年度	特定の重賞競走、表彰要件の緩和(育成期間5ヶ月以上)	125件	平成24年度		250件
平成16年度	3歳新馬競走	195件	平成25年度		232件
平成17年度		185件	平成26年度		272件
平成18年度	3歳オープン競走	201件	平成27年度		280件
平成19年度		213件	平成28年度		275件
平成20年度		218件	平成29年度		284件
			平成30年度		295件
			平成31(令和元)年度	リステッド競走	338件
			令和2年度		332件
			令和3年度		353件

表2. 令和4年度の実施について

種 目	表彰要件(注1、2)	賞 金	備 考
1. 新馬競走 2歳新馬競走 3歳新馬競走	満1歳になる年度の9月1日～12月31日までの間に騎乗馴致を開始し、翌年の5月31日までの期間に継続して150日以上育成し、優勝した馬を育成した正会員	原則10万円	ただし、賞金総額が予算額を上回った場合、単価切り下げを実施。
2. 2歳重賞競走等 (1) 2歳重賞競走 (2) 2歳重賞指定交流競走(地方競馬施行) (3) 2歳リステッド競走			
3. 障害重賞競走	継続して60日以上障害調教を行った馬であって、トレセン等入厩後42日以内に障害試験に合格し、優勝した馬を育成した正会員	原則10万円	ただし、賞金総額が予算額を上回った場合、単価切り下げを実施。
4. 平地重賞競走等(2歳限定競走を除く) (1) 平地重賞競走 (2) 平地リステッド競走	トレセン等入厩直前に、継続して14日以上育成調教を行った馬であって、トレセン入厩後30日以内に優勝した馬を育成した正会員		
5. 1～4以外の平地オープン競走(2歳及び3歳限定競走を除く)			

注1. 前年度の12月31日現在、当協会の正会員であること。

注2. ただし、障害重賞競走にあつては、障害調教開始日現在において、当協会の正会員であること。



表3. 令和3年度 育成技術表彰対象会員一覧

会員名	代表者名 (敬称略)	地域	表彰件数														会員 番号			
			合計	新馬		2歳重賞・リステッド				2歳交流重賞			3歳以上重賞・リステッド					障害重賞	3歳 以上 オープン	
				3歳	2歳	G I	G II	G III	L	JPN I	JPN II	JPN III	G I	G II	G III 重賞	L				
ノーザンファーム	吉田 勝己	北海道	90	6	76	2	1	2	1			1				1			1056	
社台ファーム	吉田 照哉	北海道	28	4	23											1			1033	
(株)レッキスホースパーク	吉田 俊介	関西	26											2	7	8	5		4	4027
ノーザンファーム天栄	吉田 勝己	東北	22											4	2	11	3		2	2017
(株)吉澤ステーブル	吉澤 克己	北海道	18	4	14															1096
(株)マエコーエンタプライズ大山ヒルズ	前田 幸治	関西	14	2	9											1	2			4031
追分ファーム(リリーバレー)	吉田 晴哉	北海道	10	2	5		1	1											1	1003
(有)ファンタストクラブ	古岡 宏仁	北海道	10	1	8						1									1075
(株)グリーンウッドパーク	清水 文徳	関西	10												2	3	3		2	4008
(有)下河辺牧場	下河辺 行雄	北海道	9	4	4					1										1032
(有)坂東牧場	坂東 正積	北海道	9	2	6				1											1065
(株)シュウジテイファーム	石川 秀守	北海道	8		7		1													1100
社台ファーム山元トレーニングセンター	吉田 照哉	東北	7													2	2		3	2024
(株)吉澤ステーブルWEST	吉澤 克己	関西	7													2	1		4	4029
(有)三嶋牧場	三嶋 昌春	北海道	6	1	5															1087
(有)千代田牧場	飯田 正剛	北海道	5	1	2	1		1												1048
(有)ビッグレッドファーム	岡田 美佐子	北海道	5		5															1073
(有)ノルマンディーファーム	岡田 牧雄	北海道	5		5															1104
(有)宇治田原優駿ステーブル	八木 秀之	関西	5												1	2	1		1	4005
(有)ケイアイファーム	中村 祐子	北海道	4		3				1											1023
(株)エクワインレーシング	瀬瀬 賢	北海道	4		4															1035
(有)キタジョファーム	北所 直人	北海道	3		3															1018
(有)コスモビューファーム	岡田 亜希子	北海道	3		3															1026
(株)西山牧場	西山 茂行	北海道	3	1	2															1053
(株)アクティファーム	加藤 祐嗣	北海道	3	1	2															1097
(有)フジワラファーム	藤原 俊哉	北海道	3	1	2															1103
(株)愛知ステーブル	近藤 秀典	北海道	2		2															1001
(株)小国ステーブル	小国 和紀	北海道	2		2															1012
(株)加藤ステーブル	加藤 信之	北海道	2		2															1016
(有)グランド牧場	伊藤 佳洋	北海道	2		2															1021
(株)セイクリットファーム	小林 克己	北海道	2		1				1											1027
ヤシ・レーシングランチ	八嶋 雄太	北海道	2		1				1											1105
(有)坂本企画K Sトレーニングセンター	坂本 幸子	関東	2														1		1	3014
(有)ビッグレッドファーム絆田TC	岡田 美佐子	関東	2												2					3038
(有)山岡トレセン	山下 繁美	関西	2		1														1	4022
(株)フォレストヒル	金山 敏也	関西	2												1	1				4032
(有)内田ステーブル	内田 裕也	北海道	1	1																1004
(合)藤平ステーブル	藤平 浩幸	北海道	1	1																1014
(有)武田ステーブル	武田 茂男	北海道	1		1															1042
(有)谷川牧場	谷川 貴英	北海道	1						1											1045
チームブレアデス	星野 純一	北海道	1		1															1049
(有)日高軽種馬共同育成公社	鳴海 修司	北海道	1		1															1070
(有)ヒダカファーム	近藤 聡明	北海道	1		1															1072
(有)三石軽種馬共同育成センター	前川 則久	北海道	1	1																1088
(有)ヤマダステーブル	山田 秀人	北海道	1		1															1095
(株)吉永ファーム	吉永 正志	北海道	1	1																1102
(有)高木競走馬育成牧場	高木 秀男	関東	1														1			3025
松風馬事センター	諸岡 慶	関東	1														1			3035
(株)Tomorrow Farm	齋藤 野人	関東	1		1															3044
(有)チェスナットファーム関東支部	広瀬 亨	関東	1																1	3047
グリーンファーム(株)	宮嶋 真也	関西	1														1			4025
(有)ワコーファーム	脇 和弘	関西	1														1			4028
表彰件数 合計		52会員	353勝	34	205	14		2	3			52		23	0	20	353			
対象競走 合計			557競走	45	252	14		2	4			116		61	10	53	557			
該当率			63.4%	75.6%	81.3%	100.0%		100.0%	75.0%			44.8%		37.7%	0.0%	37.7%				
対象競走			3歳新馬	2歳新馬	2歳重賞・リステッド				2歳交流重賞			3歳以上重賞・リステッド		障害	オープン					

# 令和3年度 2歳重賞競走の施行競馬場における表彰

※ 11月以降

新型コロナウイルス感染拡大防止等のため、函館・新潟・札幌・小倉各2歳ステークスの表彰式は中止となりました。

日付	場所	回	競走名	G	馬名	性	会員番号	牧場名	備考
11/6(土)	東京	第57回	京王杯 2歳ステークス	II	キングエルメス	牡	1100	(株)シュウジデイ ファーム	表彰式中止
11/13(土)	阪神	第56回	デイリー杯 2歳ステークス	II	セリフォス	牡	1003	追分ファーム	表彰式中止

# 令和4年度 2歳重賞競走の施行競馬場における表彰

日付	場所	回	競走名	G	馬名	性	会員番号	牧場名	備考	(肩書)
7/16(土)	函館	第54回	函館 2歳ステークス	III	ブトンドール	牝	1056	ノーザンファーム	高橋司 理事	北海道地域 団体(支部) 副支部長
8/28(日)	新潟	第42回	新潟 2歳ステークス	III	キタウイング	牝	-	対象外	沖崎誠一郎 理事	関東地域団体 (支部)長
9/3(土)	札幌	第57回	農林水産省賞典札幌 2歳ステークス	III	ドゥーラ	牝	1020	(有)グランデファーム	飯田正剛 副会長理事	北海道地域団 体(支部)長
9/4(日)	小倉	第42回	小倉 2歳ステークス	III	ロンドンブラン	牡	1032	(有)下河辺牧場	柏木務 理事	九州地域団体 (支部)長





令和4年7月16日(土) 函館競馬場  
第54回函館2歳ステークス(GⅢ)  
優勝馬 ブトンドール(牝)  
表彰会員名【1056】ノーザンファーム  
プレゼンター：高橋 司 理事  
〔北海道地域団体(支部)副支部長〕

令和4年9月3日(土) 札幌競馬場  
第57回農林水産省賞典札幌2歳ステークス(GⅢ)  
優勝馬 ドゥーラ(牝)  
表彰会員名【1020】(有)グランデファーム  
プレゼンター：飯田 正剛 副会長理事  
〔北海道地域団体(支部)長〕



令和4年9月4日(日) 小倉競馬場  
第42回小倉2歳ステークス(GⅢ)  
優勝馬 ロンドンプラン(牡)  
表彰会員名【1032】(有)下河辺牧場  
プレゼンター：柏木 務 理事  
〔九州地域団体(支部)長〕

# 軽種馬生産育成強化資金利子補給事業

軽種馬生産育成強化資金利子補給事業は、公益財団法人全国競馬・畜産振興会の助成を受け、軽種馬経営の強化安定に資する目的により、協会会員を対象に軽種馬の育成調教に係る施設、機械、草地等の経営環境の整備・改善に必要な資金を融通する融資機関に対し利子補給を行うものです。

本事業における貸付対象は、大きく以下の3種類に分類されます。

①生産育成施設整備資金

厩舎、馬場、放牧柵およびその他協会が認める生産育成施設の改良、造成または取得に必要な資金

②生産育成機械等取得資金

牧草収穫調整用機械、農用地改良造成用機械、馬運車を含む運搬用機械、糞尿処理施設等環境汚染防止施設およびその他協会が認める生産育成用機械の改良、造成または取得に必要な資金

③草地更新等整備資金

草地更新等整備に必要な資金

本事業は、平成5年より国が実施する農業近代化資金制度に準じた形態で実施していますが、平成22年までは9件の利用実績に止まっていた。

しかし、近年は政府のマイナス金利施策により、各融資機関が低利での融資提供に積極的となったため、平成29年～令和3年の5年間で14件の新規の利

子補給金交付があり、令和4年度も既に1件の交付と2件の利用が予定されています。

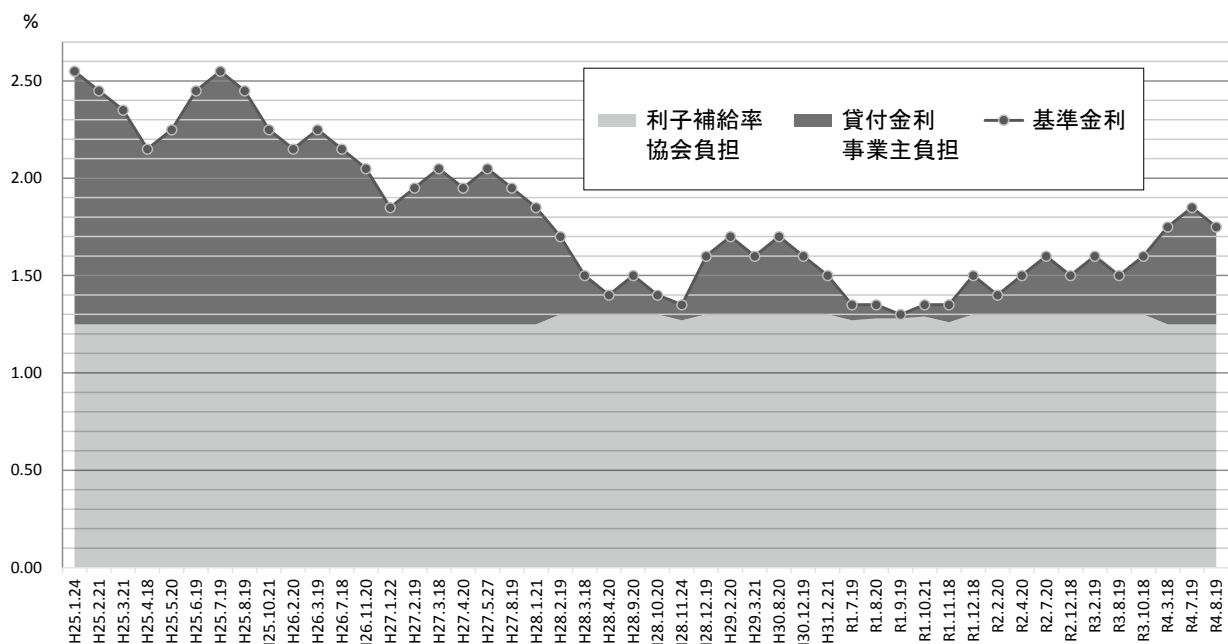
これまで利用実績のある融資機関としては、北海道銀行早来支店、北洋銀行静内支店、日高信用金庫静内支店、常陽銀行美浦支店、筑波銀行美浦支店、滋賀県信用農業協同組合連合会および滋賀銀行八日市東支店があります。

本事業のご利用を検討されている会員は、協会業務部までご連絡ください。

融資状況（令和4年9月1日現在）

承認年	地区	承認額 (千円)	基準金利	利子補給	貸付金利
平成22年	関西	110,000	2.50%	1.25%	1.25%
	関西	300,000	2.70%	1.25%	1.45%
平成29年	北海道	144,000	1.40%	1.30%	0.10%
	関東	300,000	1.40%	1.30%	0.10%
	関東	40,000	1.40%	1.30%	0.10%
	関東	43,000	1.60%	1.30%	0.30%
	関西	3,500	1.60%	1.30%	0.30%
平成30年	北海道	85,000	1.60%	1.30%	0.30%
令和元年	関東	100,000	1.50%	1.30%	0.20%
	関東	25,900	1.35%	1.28%	0.07%
令和2年	関東	9,890	1.50%	1.30%	0.20%
	関西	100,000	1.60%	1.30%	0.30%
令和3年	北海道	10,000	1.60%	1.30%	0.30%
	北海道	6,500	1.60%	1.30%	0.30%
令和4年	北海道	96,780	1.75%	1.25%	0.50%

軽種馬生産育成強化資金利子補給事業 利子率変遷 平成25年～令和3年



## 競馬関連機材等有効活用事業

競馬関連機材等有効活用事業は、会員の育成調教施設用機材の投資負担を軽減して経営の安定化を図ることを目的に、平成15年より JRA および関連団体で使用を取りやめた競馬関連機材等について提供を受け、会員への再利用を斡旋（有償、無償）しています。

コロナ禍の令和3年度においても10月に25件もの募集が実現し、20件（うち1件は11月の2次募集にて）が会員に配付されました（一部応募数が募集数を上回る機材の配付については、監事立会いのもとで厳正なる抽選を実施し、配布する会員を決定しています）。募集要項および結果等の詳細については、随時協会ホームページに掲載しておりますのでご確認ください。

令和4年度におきましても、1月の第1回に続き、秋季を目途に第2回の募集として提供される機材の情報提供を行うべく準備を進めておりますので、各地域団体（支部）からのお知らせおよび協会ホームページをご確認ください。

### ご注意ください！

#### 以下の会員は応募をお控えください！

本事業は、有償・無償を問わず、事業の主旨にご賛同いただいた提供者様のご協力により実施されております。今後も本事業を継続していくため、**以下に該当する会員については応募をお控えください。**

- ・機材情報に記載された機材の状況・不具合等について、承諾できない会員。
- ・配付の確定後、速やかに指定された機材提供者に連絡し、引取り等の相談をすることが困難な会員（引取り等については、会員自らが機材提供者と直接の連絡を取ることが必要です）。
- ・平日の1日以上、電話に応答できないまたは折り返しの返答が困難な会員。
- ・自ら機材を引取る、または引取り業者を手配し、引取り等を調整することが困難な会員。
- ・車両等、移譲の手続きが必要な機材において、速やかに名義変更等の手続きをとることが困難な会員。
- ・提供される機材の全ての引取りが困難（一部のみの引取りのみを希望する）である会員。
- ・その他フォーマットに記載の事項に承諾できない会員。

### ご協力をお願いいたします。

応募に際し、必ず事前に協会ホームページ内の本事業実施要領および募集に係る注意事項をご一読、記載内容についてご了承いただいたうえで応募されますようお願いいたします。無抽選の場合を除き、同一年度内に一会員一機材限りの配付となります。また、前回の募集で同種機材の抽選に漏れた会員に限り、同種機材への優先倍率が適用（1回限り）されます。提供される機材により、残存減価償却費相当の有償機材であること、使用に際して修理を要する機材であること、特殊機械等の理由から高額な輸送費負担が生じる機材である場合があります。原則として抽選予定日以降のキャンセルはできませんので、熟考の上でご応募くださいますようお願いいたします。

今後も、JRA、JRAF ならびに JSS 関係者の皆様のご協力を賜り、ご提供いただける機材の情報収集に努めてまいります。

競馬関連機材等有効活用事業対象機材の抽選結果

① 令和3年度・第1回〔10月22日(金)25件〕

通番	物件	台数等	提供者	取得年	売却価格 (税込)	応募 件数	除外 件数	優先 件数	倍率	取得会員 所属支部
1号	ウニモグ・ベッツ社製・日高(1号)	1台	ハロー曳用等	平成12年 (2000)	無償	4	0	0	4	北海道
2号	ウニモグ・ベッツ社製・日高(3号)	1台	ハロー曳用等	平成14年 (2002)	無償	5	1	0	4	関東
3号	トラクター(89PS)・美浦	1台	ハロー掛け	平成19年 (2007)	¥495,000	20	4	3	19	関東
4号	散水車・三菱・馬事公苑	1台	散水用	平成8年 (1996)	無償	7	0	2	9	関東
5号	散水車・栗東	1台	散水用	平成20年 (2008)	¥618,390	4	0	0	4	関東
6号	タンク車・栗東	1台	薬剤散布用	平成19年 (2007)	¥55,000	2	0	1	3	北海道
7号	トラック トヨタ ダイナ 1.25t・京都	1台	荷運搬用	平成10年 (1998)	無償	7	1	3	9	北海道
8号	軽トラック スバル自動車製・ 美浦	1台	荷運搬用	平成22年 (2010)	¥172,320	12	3	2	11	関東
9号	軽自動車(ワンボックス)・ 美浦1	1台	移動用	平成23年 (2011)	¥130,310	8	0	0	8	北海道
10号	軽自動車(ワンボックス)・ 美浦2	1台	移動用	平成23年 (2011)	¥130,310	8	0	0	8	北海道
11号	軽自動車(ワンボックス)・ 美浦3	1台	移動用	平成23年 (2011)	¥130,310	10	0	0	10	関西
12号	軽自動車(ワンボックス)・ 美浦4	1台	移動用	平成23年 (2011)	¥130,310	9	0	0	9	関東
13号	軽自動車(ワンボックス)・ 美浦5	1台	移動用	平成23年 (2011)	¥130,310	8	0	0	8	関東
14号	エンジンプレイヤー(薬剤 散布車)・東京	1台	薬剤散布用	平成10年 (1998)	無償	0	-	-	-	-
15号	マニアスプレッター・ニュー ホランド・日高	1台	堆肥散布等	平成4年 (1992)	無償	8	0	0	8	北海道
16号	目砂散布機 19-1・栗東	1台	目砂散布用	平成19年 (2007)	無償	0	-	-	-	-
17号	除雪機・札幌	1台	除雪	平成19年 (2007)	無償	2	0	0	2	北海道
18号	爪ハロー4列5m・美浦	1台	ハロー掛け	平成22年 (2010)	無償	0	-	-	-	-
19号	爪ハロー(5m)・中京	1台	ハロー掛け	平成9年 (1997)	無償	0	-	-	-	-
20号	爪ハロー5m・福島(No.1)	1台	ハロー掛け	平成14年 (2002)	無償	0	-	-	-	-
21号	爪ハロー5m・福島(No.2)	1台	ハロー掛け	平成14年 (2002)	無償	1	1	0	0	北海道
22号	レベルハロー(3m 3000型 油圧式)・函館	1台	砂厚調整用	平成8年 (1996)	無償	0	-	-	-	-

通番	物件	台数等	提供者	取得年	売却価格 (税込)	応募 件数	除外 件数	優先 件数	倍率	取得会員 所属支部
23号	馴致用発馬機 4 枠・美浦 (No.53)	1台	馴致用	平成17年 (2005)	¥11,000	13	1	3	15	関東
24号	馴致用発馬機 4 枠・美浦 (No.54)	1台	馴致用	平成17年 (2005)	¥11,000	12	2	4	14	北海道
25号	FRP 馬場柵・FRP 製支柱・ 中京	1式	走路柵	平成24年 (2012)	無償	5	2	0	3	関西

※ 優先倍率の適用について：前回、同種機材の抽選に外れた取得希望会員へは、今回の抽選時1回に限り2個の玉を投入した。

※ 4号：当選者辞退のため、次点が取得者となった。

※ 6号：応募者が他機材当選者のみであったため、2台目取得となった。

※ 21号：除外対象からの応募1件のみであったため、当選となった。

※ 14.16.18.19.20.22号：応募者なかったため二次募集を実施予定。

## ② 令和3年度・第1回二次募集〔11月10日(水)6件〕

通番	物件	台数等	提供者	取得年	売却価格 (税込)	応募 件数	除外 件数	優先 件数	倍率	取得会員 所属支部
14号	エンジンスプレヤー（薬剤 散布車）・東京	1台	薬剤散布用	平成10年 (1998)	無償	1	0	0	1	北海道
16号	目砂散布機 19-1・栗東	1台	目砂散布用	平成19年 (2007)	無償	0	—	—	—	—
18号	爪ハロー4列5m・美浦	1台	ハロー掛け	平成22年 (2010)	無償	0	—	—	—	—
19号	爪ハロー（5m）・中京	1台	ハロー掛け	平成9年 (1997)	無償	0	—	—	—	—
20号	爪ハロー5m・福島（No. 1）	1台	ハロー掛け	平成14年 (2002)	無償	0	—	—	—	—
22号	レベルハロー（3m 3000型 油圧式）・函館	1台	砂厚調整用	平成8年 (1996)	無償	0	—	—	—	—

※ 14号：応募1件のみであったため、無抽選当選となった。

※ 16.18.19.20.22号：応募者なし（再度の募集はありません）

## ③ 令和4年度・第1回〔1月28日(金)1件〕

通番	物件	台数等	提供者	取得年	売却価格 (税込)	応募 件数	除外 件数	優先 件数	倍率	取得会員 所属支部
1号	馬運車・三菱自動車製・東京	1台	馬匹輸送用	平成8年 (1996)	無償	33	0	0	33	北海道

※ 競馬関連機材等有効活用事業実施要領第6条に定める除外、優先対象者はなし

# 軽種馬経営高度化指導研修（人材養成）

当協会では、平成22年度から地方競馬全国協会が実施している「競走馬生産振興事業」のうち、経営基盤強化対策事業の軽種馬経営高度化研修事業（人材養成支援）により助成を受け、生産・育成技術者の海外派遣研修をはじめ以下の3事業を引き続き実施しています。

## 1. 生産育成技術者海外派遣事業

この事業は、海外研修に係る諸経費（交通費、研修費、宿泊費等）の1/2を上限に補助金を交付するものです。この研修制度の詳細については、協会ホームページをご覧ください。

例年ならば生産育成技術者養成機関の卒業生を対象とした研修や長期研修及び短期研修を対象に海外研修への派遣援助を行ってきましたが、令和2年度からは、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の影響により、全ての海外派遣研修の実施を見合わせる結果となりました。

令和4年度においても新型コロナウイルス感染症拡大防止対応のため、やむを得ず募集を見合わせました。

## 2. 修学奨励金交付事業

国内軽種馬関係機関が国内の軽種馬生産・育成の仕事に就くための者を養成する目的で設置した研修施設で教育を受けようとする者の内、勉学意欲がありながら経済的理由により修学が困難な者に対して修学奨励金を交付する事業で、現在は、（公社）日本軽種馬協会、（公財）軽種馬育成調教センター及び協会が特に指定する研修所で研修を受講する者を審査対象としています。令和4年度における承認件数は、合計2件でした。

## 3. 生産育成牧場就業者参入 【特集ページ参照】

軽種馬の生産育成調教分野で働く人材を確保するため、多くの若者に生産育成調教の現場を紹介することにより就業者の参入を促進する事業です。



## 賛助会員のご紹介

令和4年度、公益社団法人競走馬育成協会の賛助会員となっていただきました各社をご紹介します。

### 有限会社 アスコットコーポレーション

代表取締役 加藤誠  
Tel.029-885-8199 Fax.029-885-6177  
〒300-0427 茨城県稲敷郡美浦村布佐1870-8

馬体の健康は大腸を強くするサラLGから！  
皆様に信頼され20年の実績があるサラLGを販売しています。ご要望があればすぐに伺います！

サラLGは馬が好む甘いオリゴ糖により飼料に混ぜるだけで食欲が増します。腸が元気でないと活力ができません。諦めずにサラLGを与え続ける事によって馬自身で栄養を生成していきます。レースの疲れを軽減するだけでなく、よく眠れる事でスイッチのオンオフが入りやすくなると言われています！



### 株式会社 テイクオー

代表取締役 萩原早苗  
Tel.047-325-2000 Fax.047-325-2000  
〒272-0033 千葉県市川市市川南2-4-12市川ガーデニア512

### 株式会社 市原商店

代表取締役 今泉治武  
Tel.077-558-0834 Fax.077-558-0885  
〒520-3004 滋賀県栗東市上砥山2096

### ベルテック 株式会社

代表取締役 竹下晋二  
Tel.06-6991-9875 Fax.06-6991-9876  
〒570-0044 大阪府守口市南寺方南通3-11-10

### 株式会社 三和メック

代表取締役 天野公夫  
Tel.028-645-2741 Fax.028-645-2413  
〒321-0105 栃木県宇都宮市横田新町18-6

### 北海飼料販売 株式会社

代表取締役 勢戸俊雄  
Tel.077-554-2468 Fax.077-553-2001  
〒520-3011 滋賀県栗東市下戸山127-1

### 株式会社 タイワ

代表取締役 長谷川和宏  
Tel.0575-24-7111 Fax.0575-24-7110  
〒501-3822 岐阜県関市市平賀811  
E-mail horsseshoe@taiwa-co.com

### 株式会社 渡辺商店

代表取締役 渡邊義昌  
Tel.03-3463-7661 Fax.03-3463-2715  
〒153-0042 東京都目黒区青葉台3-6-12

# JRA からのお知らせ

「遺伝子改変」ならびに「禁止行為」に関する規定の設定について

このたび JRA では、諸規程を整備して、「遺伝子改変された馬の競走馬登録」ならびに「馬に対する禁止行為」に関する規定を設定しましたのでお知らせいたします。

トレセン内に限らず、生産・育成牧場や放牧先での管理にも関わる内容となりますので、ご一読いただきご理解賜りますようお願い申し上げます。

2023年4月1日 JRA 馬事部

## 1. 遺伝子改変馬の登録拒絶要件への追加

遺伝子进行操作して、意図的に能力をコントロールする、といったことは、これまで空想の世界に限ったものと思っていたところですが、近年の遺伝子関連技術の急速な進歩により、遺伝子改変技術が競走馬に利用されることも現実味を帯びてきており、注視していかなければならない時代となってきました。

能力を高めることを目的として人為的に遺伝子进行操作することは、公正確保の観点から決して許されることではありません。しかしそれ以上に問題となることは、遺伝子改変馬から生まれる馬もまた遺伝子改変馬となり、その影響が次の世代へと受け継がれることです。このような行為は、およそ300年にわたって血統管理されてきたサラブレッド種の健全性を損なうことであり、サラブレッド競馬の根幹を揺るがす重大な問題です。国際競馬統括機関連盟(IFHA)では、「競馬と生産及び賭事に関する国際協約」にその理念を掲げている他、国内でも公益財団法人ジャパン・スタッドブック・インターナショナル(JAIRS)登録規程に、遺伝子操作によらない産駒であることが登録の要件として記載されています。このような背景から、JRAにおいても早急に具体的な対策を講じる必要があると考え、日本中央競馬会競馬施行規約・規程に定める「競走馬登録の拒絶要件」に遺伝子改変馬を加えることとしました。

※「競馬と生産及び賭事に関する国際協約」～抜粋

第6条（競走馬の生物学的健全性）

ゲノム編集をすることを生涯禁止

第12条（サラブレッドの定義）

遺伝子が改変された競走馬はサラブレッドとして認めない

## 2. 馬に対する禁止行為の新設

JRA ではこれまで、競走能力に影響を与える薬物や、馬の福祉や事故防止の観点から規制すべき薬物など、種々

の薬物規制について規程整備を行ってきました。近年では、このような薬物規制では取り締まれない「行為」、すなわち、馬に対し過度の苦痛を与えること、正常な成長に影響を与える可能性のあること、獣医療行為の中で調教や競走時の事故に繋がりがかねない薬物検査で摘発できない行為などに関する対応が世界的に課題となっています。JRAにおいてもこれらの行為を抑止するため、馬に対して行うことを制限する行為を「禁止行為」と規定し、厩舎関係者に対して指示を与えることとしました。

### 禁止行為

○公正確保の観点から本会施設の内外を問わず禁止（制限）する行為

- ・血液ドーピング
- ・遺伝子ドーピング
- ・化学的、又は免疫学的去勢
- ・オゾン療法（出走までの1カ月間を制限）

○馬の福祉の観点から本会施設の内外を問わず禁止する行為

- ・瀉血、乱刺（笹針）
- ・焼烙
- ・プリスター
- ・成長途上である4歳未満の馬に対する骨吸収抑制剤（主な薬剤：ティルドレン）の投与

○事故防止の観点から出走を制限する行為

[期間を定めて制限するもの]

- ・4歳以上の馬について、骨吸収抑制剤（主な薬剤：ティルドレン）投与後の出走（1カ月間）
- ・糖質コルチコイド等を関節内投与した後の出走（10日間）
- ・下肢部にショックウェーブ療法を行った後の出走（7日間）

[生涯禁止するもの]

- ・神経切断術

※「競馬と生産及び賭事に関する国際協約」～抜粋

第6条（競走馬の生物学的健全性）

- ・遺伝子治療を不正利用することの禁止
- ・競走馬の健康と福祉、および競馬の健全性を危うくする行為の禁止

ご不明な点や詳細につきましては、JRA 馬事部獣医課までお問い合わせください。 TEL 050-3139-9538

## 本社事務所移転のお知らせ

拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、このたび弊社は本社事務所を下記の住所へ移転することと致しましたので、ここに謹んでご案内申し上げます。

これを機に、社員一同、気持ちを新たに一層社業に邁進して参る所存ですので、今後とも倍旧のご愛顧とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

まずは略儀ながら書中をもってご挨拶申し上げます。

敬具

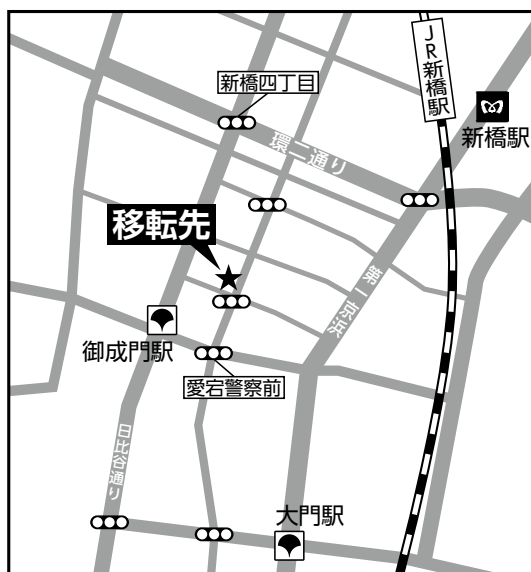
日本スターティング・システム株式会社

代表取締役社長 横田 貞夫

### 記

1. 新住所 〒105-0004  
東京都港区新橋6丁目14番3号  
御成門PREX7階
2. 電話番号 電話 03-6206-6271 (代表) FAX 03-6206-6272  
電話・FAX番号に変更はございません。
3. 業務開始日 令和4年6月1日(水)

以上



都営地下鉄三田線 「御成門」駅徒歩3分

都営地下鉄大江戸線・浅草線 「大門」駅徒歩9分

JR・東京メトロ銀座線 「新橋」駅徒歩11分

## 軽種馬防疫協議会からのお知らせ

令和4年6月

### 「日本脳炎の予防接種要領の変更について」

#### 【変更前】

仕様説明書に基づき、その流行前の5～6月に2回接種すること  
※5～6月に接種が完了していない場合でも、必ず10月までに接種すること



#### 【変更後】

仕様説明書に基づき、初年度はその流行期前（5～6月）に2回接種（基礎免疫）し、次年度以降は流行期前に少なくとも1回補強接種すること。  
※前年の接種歴がない場合は、再度基礎免疫から実施すること。

## ◆ ホームページのご案内

### 【競走馬育成協会】

ホームページに毎週育成技術表彰対象会員情報を掲載しています。

他、各種事業内容等掲載されていますのでご利用ください。

### 【BOKUJOB】

生産・育成牧場就業応援のためのサイトを掲載しておりますのでご利用ください。

## ◆ 令和4年度 競走馬育成協会役員人事 (3月)

### 【退任】

副会長理事 佐藤光信

### 【就任】

◎副会長理事 和田信也  
 ※前 JRA 競走馬総合研究所長  
 ◎監事 岩崎幸治  
 ※元 地方競馬全国協会理事

### 和田副会長理事 ごあいさつ

3月より副会長兼常務理事を務めます和田 信也です。

前職は、JRAの競走馬総合研究所長でした。競走馬育成協会とは平成30年から2年間、生産育成対策室に勤務した際に関わって以来のお付き合いとなります。

感染症、経済、気象等々、競走馬の育成業を取り囲む要因はめまぐるしい変動を続けています。これらに対峙しながら競馬を支える協会員の皆様をサポートし得る協会運営ができるよう微力を尽くして参ります。

どうぞよろしくお願ひいたします。

いぐせい

2022 60号

---

発行日 令和4年10月1日  
発行 公益社団法人 競走馬育成協会  
〒105-0004 東京都港区新橋4-5-4  
日本中央競馬会新橋分館4階  
TEL. 03(6809)1821 FAX. 03(6809)1822  
E-mail : kgj00522@nifty.ne.jp  
URL : <http://www.ttda.or.jp>  
編集責任者 和田信也  
制作・印刷 西谷印刷株式会社



